

【校訓】

真摯 明朗 健康

- ◆真摯／知性を高め、高潔な人格を育てるために、日常生活すべてに対し真摯な心構えであること
- ◆明朗／明朗な性格を育て、互いに正しい理解と友愛の心を持って協力し、社会人としての資質を養うこと
- ◆健康／あらゆる活動の源泉は健康より生まれることを認識し、健全な生活を送るために強靭な健康体をつくること

編集後記

今思い出せば、11月の県推薦校、12月の東北地区候補校となつたことから、早めに準備委員会を立ち上げたところでしたが、誰もが半信半疑であつたことは言うまでもありません。「正月に家族の話のネタにしてください、1ヵ月間いい夢を見させてもらいましょう。縁があれば年明けに再会しましょう」と言って、最後の委員会を開いた記憶があります。

現実的となつたのは、1月28日(金)午後3時すぎ、多くの報道各社が校長室で待機する中、日本高野連からの電話で正夢となり、誰もが予想できない展開のはじまりとなりました。予算も支援体制のノウハウもなく、すべてが初めての取組みとなり、裏方の事務としては、「無事に甲子園の土を踏ませることができるのだろうか」と頭がよぎつたものです。2月1日(火)に後援会を設立してから、甲子園出場までの怒涛の日が続きました。当初の心配をよそに、毎日のよう電話や来校での激励や只見町民をはじめとする全国からの多大な支援金をいただき、野球部の事前合宿甲子園滞在費用やユーボーム等の購入費、在校生の応援費用等に充当することができました。この場をおかりして、あらためて心から御礼を申し上げます。

また、さらに重要な課題であったのは、甲子園までの練習環境の確保でした。只見町は、豪雪地帯で3mを超える積雪となつており、グラウンドは使用不可で体育馆や駐輪場でしか練習ができないため、他地域に遠征をするしか方法はありませんでした。しかし、全国的なコロナ禍であり、宿泊合宿は不可となるなど練習環境はさらに制限される事態となりました。このため、週末を利用して感染対策に細心の注意を払い、県内の中通りや浜通りの高校のグラウンドを借用させてもらい、長谷川監督が自らマイクロバスを運転して往復400kmの日帰り遠征をすることができませんでした。ようやく2月末から宿泊が可能となり、週末に丁ヴィレッジに宿泊することで、楢葉町やいわき市で集中的な事前合宿を実施し、土のグランドでの感触をつかみ、制限がある中でも最大限の準備を行つて甲子園に向けて出発しました。選手たちが、全力疾走で思う存分プレーをし、多くの方に感動を与えたことは、今でも昨日のことのように思い出されます。

最後に、記念誌の発行に当たり、原稿をお寄せいただいた皆様に御礼を申し上げます。また、只見町には様々御協力御支援をいたいたことから、心より感謝申上げます。福島県民をはじめ全国の皆様、応援ありがとうございました。

追伸 今回で事務的なノウハウは蓄積されたため、いつでも甲子園へ行く準備は整っています。再度甲子園への道をつかみ取つてくれることを信じて

（未来は拓けています。次の主役は君たちだ！）

只見高等学校甲子園出場記念誌編集担当

（只見高校事務長） 松田 香樹

只見高等学校甲子園出場記念誌編集担当

（只見高校事務長） 松田 香樹

【福島県立只見高等学校野球部甲子園出場後援会構成員】

名誉会長	渡部 勇夫（只見町長）
会長	目黒 敏男（同窓会会长）
副会長	目黒長一郎（雪椿会会长）
顧問	渡部 公三（只見町教育委員会教育長）
	高野 武彦（福島県会津地方振興局長）
	金子 市夫（前福島県南会津地方振興局長）
監事	新國 善之（前PTA会長）
会計	伊藤 勝宏（前校長）
	伊藤 靖隆（校長）
幹事	馬場 博美（只見町商工会事務局長）
	吉津 健（野球部保護者会会长）
	酒井 文高（学校運営協議会委員長）
	増田 栄助（只見町総務課長）
	馬場 一義（前只見町教育委員会次長）
	菅家 亮（只見町教育委員会次長）
	長谷川清之（野球部監督）
事務局	佐藤 繁（前教頭）
	佐藤 秀昭（教頭）
	長谷部正隆（同窓会事務局長）
	鈴木 宏睦（野球部部長）
	根本修太郎（野球部顧問）
	松田 香樹（事務長）
	佐藤 幹（主事）



只見高校 2022春 甲子園

第94回選抜高等学校野球大会 出場記念

発行日	2022年8月吉日
発行者	福島県立只見高等学校野球部甲子園出場後援会 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字根岸2358 電話 0241-82-2148
編集・製作	株式会社 プラスヴォイス 〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町1丁目8-14 仙台協立第2ビル8F 電話 022-723-1261
撮影	三浦 宏之、松浦 謙、佐々木 崇志、藤井 理仁、長沢 啓史
印刷	株式会社 三愛舎印刷